

**明治大学・川崎市 黒川地域連携協議会 第1回 地域活性化検討専門部会  
議事要旨**

1 開催日時：平成30年7月2日（月）14:00～16:00

2 開催場所：明治大学黒川農場 会議室

3 出席者：[座長] 玉置教授

[部会員] 熊澤委員、塩入委員、坂本委員、川端浩之委員、川端孝之委員、上原委員  
（市川代理）、島野委員、川口愛委員、古山委員、地引委員、遠藤委員、田  
島委員、伊藤委員

[事務局] 麻生区役所まちづくり推進部企画課：安藤企画課長、福島担当係長、大條  
主任、長瀬担当

コンサルタント（株）UR リンケージ 牧野、岸本、會田）

#### 4 議事〈主な意見〉

##### （1）これまでの成果

###### 1) アスパラガスによる黒川の農業活性化

- ① アスパラガスが普及したことで、黒川のブランド化に貢献している。
- ② アスパラガスの取り組みは、地元にとっても農協にとっても成果があった。今後も続けた  
い。

###### 2) 協議会による大学と地域連携の実現

- ① 協議会で大学と地元が意見を重ねてきたことで「まずはやってみる」という雰囲気が出て  
きた。
- ② これまでの様々な取り組みが、現在の連携の基礎になっている。

###### 3) 来街者のマナーの向上

- ① 当初は、ごみのポイ捨てなど、明大学生が通行することへの不安もあった。
- ② 以前に比べて来街者として散策する人のマナーが向上してきたと感じている。
- ③ きれいに維持管理をしている場所にごみを捨てる人はいない。

###### 4) 多様な主体の関わりの実現

- ① 当初は和光大学との連携について議論があったが、黒川子ども会と一緒にアート作品づくり  
など、よい取り組みができています。

##### （2）今後の課題

###### 〈全体にかかるもの〉

###### 1) 協議会や協議会の取り組みのPRの充実

- ① 黒川駅前前の風車を見ても誰が作ったのかわからないので、取り組みをもっとPRできると  
よい。
- ② 会議に出席してはじめて、協議会の取り組みやイベントを実施していることが分かった。
- ③ より多くの市民へ、協議会についてPRしていく必要がある。

###### 2) 他の部会や他の団体のイベントとの連携

- ① 収穫体験に参加した方が里山保全体験に参加してくれたので、他の部会のイベントと連携

させていきたい。

- ② 様々な団体で行っている取組みを、地域の魅力を発信させる取組みとして一体化できるとよい。

### 3) 他の部会の取組みとの情報共有

- ① 3部会の取組みやその他黒川での取組みを集約しながら、情報共有をする必要性を感じた。
- ② 農産物部会の取組についてはあまり認知していなかったため、横のつながりを意識して取組んでいきたい。

### 4) 大学連携の強化

- ① 黒川農場と地域との連携をさらに進めたい。
- ② 農場だけでなく、生田校舎の研究室との連携も進めたい。
- ③ 大学との連携を考える上で、学生にももう少し来てもらいたい。

### 5) 地元主導の取組みの拡充

- ① 地元主導の取組みが広がっていくためにも、協議会として応援できるとよい。

### 6) 見直しのポイント

- ① 長期的な視点で風景を大切にすることを第一に考えていく必要がある。
- ② 重複するイベント等は、見直しや集約をする必要がある。

#### 《農業・里地里山専門部会にかかるもの》

##### 1) 収穫祭直売におけるPRの充実

- ① 収穫祭の直売をきっかけにセレスモスの売り上げがあがるようにしたい。

##### 2) アスパラガスによる農業活性化

- ① アスパラガスの栽培の継続に向け、地域の生産支部としても検討が必要である。
- ② 「黒川のアスパラガス」のブランド化を進めたい。
- ③ アスパラガスの今後の方向性を、開発者の元木先生を交えて意見交換を実施する。

#### 《地域活性化部会にかかるもの》

##### 1) 多様な主体と連携した取組みの拡充

- ① 地域振興課では、禅寺丸柿と何かを合体させたイベントを実施したいと考えている。
- ② 各種イベントの場所として、セレスモスを提供することはできる。
- ③ J Aで推進している食育活動の輪が広がると良い。
- ④ マイコンシティの企業が黒川の取組みと連携できると良い。

##### 2) 黒川の魅力のPRの拡充

- ① 黒川地域の魅力は、奥まで入ることで、気付くことができるのではないかと。

### (3) 具体的取組みにおける今後の課題と平成30年度の実施計画について

#### 1) 地1: サイン・散策マップの検討・試行

##### 《成果》

- ① イベント時にマップ配布やサイン設置するのはよい。

##### 《今後の課題や方向性》

- ① 地域内の主要な箇所には常設の総合案内板があるとよい。

- ② 広い黒川地域の中で、駅や明治大学など、主要な目的地への方向を示すものがあるとよい。
- ③ 地図に表記する内容を精査し、地元を図る必要がある。
- ④ 常設サイン設置の要望の動向を把握するとともに、当面はイベント時にあわせてサインやマップを作成する。

#### 《H30 年度の実施計画》

- ① 例年通りイベント時にサインの設置を検討していく。

#### 2) 地2：里山景観づくりの検討・試行

##### 《今後の課題や方向性》

- ① 花の景観を創出するためには、畑や田んぼの作付けの位置などのルールを決めるほか、行政にもある程度予算を立ててもらふことも必要。
- ② 農作物が一面に広がっている風景も、地域の景観づくりとしてPRにつながる。
- ③ 地域の景観のPRとして地2と地3を連携させながら進められると良い。

#### 3) 地3：HP等による取り組みの紹介とイベントのPR

##### 《今後の課題や方向性》

- ① 区のHPからの発信だけでなく、地元のSNSからの発信の場があるとよいのではないかと。
- ② 黒川町内会ではSNSで地域の魅力を発信しているが、閲覧者数が少ない。
- ③ JAでも市民への周知は課題となっている。

#### 4) 地4：グリーンツーリズム

##### 《成果》

- ① 大根の収穫体験とピクルスづくりの満足度が高かった。

##### 《今後の課題や方向性》

- ① グリーンツーリズムについて、引き続き大学としても協力できる。
- ② 親子向けのイベントとすると応募人数が増える。
- ③ 収穫体験は先生頼みで年によって開催できるかどうか不安定な部分がある。
- ④ 来年度も食遺産関係の先生がいる予定なので、食育イベントの開催もできる。
- ⑤ 菜の花プロジェクトもグリーンツーリズムとして位置づけられないか。

#### 5) 地5：菜の花プロジェクト

##### 《成果》

- ① 昨年度まで区の協働事業として推進し、今後は「かえるプロジェクト」として自立した活動として展開する。
- ② 今後も区としては、広報活動など、団体を支援することとなっている。

##### 《今後の課題や方向性》

- ① 今後も明治大学のほ場を協力してもらうが、協議会としては区切りとしてよい。

#### 6) 地6：里山アート制作と展示

##### 《成果》

- ① アートサンポは黒川に目を向けてもらうきっかけとしてよいイベントとなっている。

##### 《今後の課題や方向性》

- ① 広町緑地に展示する作品はもっと目立つものが良い。
- ② 同時期に2種類のアート展示があるが、区としては、緑と道の美術展も成功しており、地

元発案のイベントを大切にしたい。

- ③ 2種類のアート展示があることで、順路が混同してしまう課題がある。
- ④ 緑と道の美術展では、作品数が多くなるとのことで、設置箇所について調整を図る必要がある。
- ⑤ 和光大学のある岡上地区でも開催を検討できると良い。

以上